

日 時：平成 27 年 2 月 21 日（土）

会 場：畿央大学

テーマ：吸引に関する講習会

講 師：田平 一行 先生（畿央大学）

増田 崇 先生（奈良県総合医療センター）

山科 吉宏 先生（藍野大学）

赤壁 知哉 先生（市立奈良病院）



#### <印象記>

今回、私は「吸引に関する講習会」に参加させて頂きました。平成 22 年に理学療法士による吸引が認められましたが、「難しそう、怖い」など私の中で少し苦手意識があり今まで避けてきた部分がありました。ですが実際の臨床で緊急を要する状況において少しでも対応できるような知識・技術を身につけたいと思い受講させて頂きました。

講習会の受講人数は 40 名程度であり、午前中は吸引に関する基礎知識、吸引ガイドライン・プロトコルを講義して頂き、午後からは人工呼吸器についての講義と気管内吸引、経鼻・経口吸引の実技を 4 つのグループに分かれ行いました。

午前中の講義の内容は呼吸器の解剖・生理、呼吸音の分類、気道クリアランス法などの吸引を行うにあたっての必要な基礎知識や感染対策、吸引が身体に与える影響、吸引の適応不適応の判断、手技の手順、吸引前後のアセスメントについて講義して頂きました。その中で最も重要な事は「患者さんをしっかりとアセスメントし“吸引が必要”である状態かどうかを判断できるようになる」ことです。視診・触診・聴診などで喀痰の貯留部位や咳嗽力、循環動態などをしっかりとアセスメントすることが大切だと学びました。また吸引による身体への負担、リスク、合併症などをしっかりと学べ、吸引後の状態がどれだけ苦しい状態にあるのかも分かり、改めて実際の現場で注意する点、配慮する点に気づかされました。

午後からの実技では実習モデルを使い、人工呼吸器装着の方に対する開放式・閉鎖式吸引方法、経鼻・経口吸引の方法をそれぞれ実際にさせて頂きました。しかし、いざ行おうとすると呼吸ラインやカテーテルの取り扱い、清潔・不潔など感染管理にまで気が回らず手順がバラバラになり、見ているだけでは分からない難しさがありました。今回は各グループにそれぞれ講師の先生方がついて下さっていたので手技のアドバイスや疑問点などをひとつひとつ質問できとても分かりやすく丁寧に教えて頂きました。

今回の講習会を通じて自分自身の吸引に対する見方が変わり、今まで安易に行われてきた「吸引」に対し改めて考え直す機会となりました。この講義で特に強く印象に残っている事は「患者さんをしっかりとアセスメントし不必要な吸引を行わない」ということです。

1日で吸引についての知識・技術の両方が学べ、とても身になる講習会でした。

最後になりましたが、大変お忙しい中、熱心にご講義頂きました田平先生、増田先生、山科先生、赤壁先生に深くお礼申し上げます。

平成まほろば病院  
理学療法士 渡辺 愛未